

# 新潟市が目指す授業づくり

## 主体的・協働的な学びを実現する授業



## 生徒指導の視点を意識した授業

「学習課題」と「まとめ」のある授業を継続することで、子どもに学び方が身に付きます。

### 「何を学んでいるのか」

・「問いを見付ける力」が高まり、子どもが自ら学習課題を設定できるようになる。

・対話によって協働が生まれ、思考が深まる。  
・子どもが自ら学習課題を追究できるようになる。

### 「何が分かり、できるようになったのか」

・子どもが自ら分かったことをまとめられるようになる。

### 「どのように学んでいるのか」

・子どもが自ら学びを自覚できるようになる。

問題 提示

学習 課題

アクティブ・ラーニング

まとめ

振り返り

授業づくりにおいて、次の四つの視点を意識することで、子どもに自律性・社会性が育まれます。

### 目的意識

・課題が何であるかを明確に捉え、「課題を解決したい」という思いを強くもつ。

・分かったこと、できるようになったことを明らかにし、学びの過程を振り返る。

### 自己決定

・根拠に基づいて、自分なりの考えをもつ。  
・友達の考えを基に、自分の考えを強化・修正する。

### 個性・能力

・自分に合った方法や役割を選択する。  
・自他の考えを生かしながら、解決を目指す。

### 協同性

・課題解決のために役割を分担する。  
・友達と積極的に意見を交流・検討する。

・かかわり合って解決したことのよさを自覚する。

## 全ての子どもが安心して参加できる授業

### 基礎的環境整備

一つの文では、一つの内容を説明する。

6/0 連続する数の性質 課題 数の性質の正誤を示すには、どのような方法があるのだろうか

$$4 + 6 + 8 = 18$$

$$10 + 12 + 14 = 36$$

$$28 + 30 + 32 = 90$$

連続する3つの偶数の和は、9の倍数になる。

予想 正しい (2名) 正しくない (34名)

連続する3つの偶数の和は、9の倍数になる。

(説明) 連続する3つの偶数が、2, 4, 6のとき、それらの和は、 $2 + 4 + 6 = 12$ で、9の倍数ではない。

したがって、連続する3つの偶数の和は、9の倍数になるとはいえない。

連続する3つの偶数の和は、96の倍数になる。

反例?  $6 + 8 + 10 = 24$   
 $8 + 10 + 12 = 30$   
 $24 + 26 + 28 = 78$   
 $86 + 88 + 90 = 264$

反例が見つからないだけでは、6の倍数になるとはいえない。

偶数は $2n$ とする

(説明) 連続する3つの偶数を  $n, n+2, n+4$  とすると、それらの和は  $n + (n+2) + (n+4) = n + n + 2n + 4 = 3n + 6 = 3(n+2)$   $(n+2)$ は整数したがって、連続する3つの偶数の和は3の倍数になるといえるが、6の倍数になるとはいえない。

うか

(説明) 連続する3つの偶数を  $2n, 2n+2, 2n+4$  とすると、それらの和は  $2n + (2n+2) + (2n+4) = 2n + 2n + 2n + 4 = 6n + 6 = 6(n+1)$   $(n+1)$ は整数したがって、連続する3つの偶数の和は6の倍数になるといえる。

まとめ 数の性質が成り立たないことを示すには、反例の一つあげればよい。成り立つことを示すには、すべての数の代わりに文字を用いて説明すればよい。

### 学習集団全体への支援

「学習課題」=赤枠  
「まとめ」=青枠など  
一目で分かる板書の工夫

「学習課題」と「まとめ」のある授業では、子どもが見通しをもち、安心して学習に参加することができます。

### 合理的配慮

基礎的環境整備に加えて、必要に応じた配慮を行うことで、安心して学習に参加できる子どももいます。

例えば

- ✓ 漢字にルビを振って読みやすくする。
- ✓ 課題の量を調整する。

### 個別の支援

ICTを活用した視覚的な資料提示

